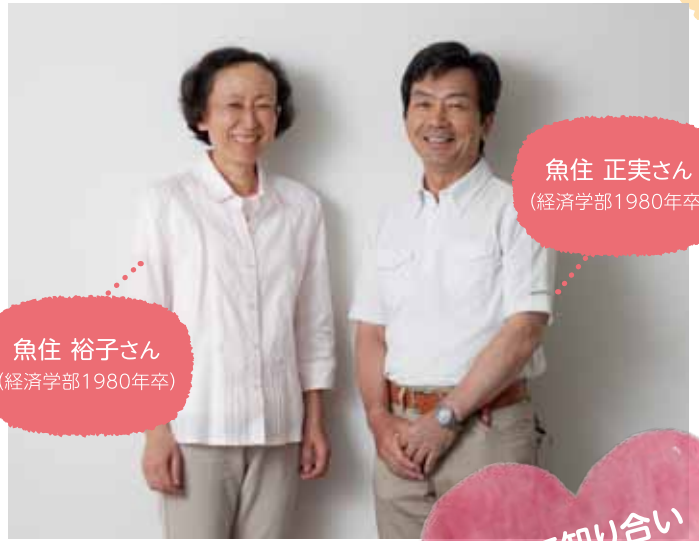


# ほ・の・ぼ・の・物・語



魚住 正実さん  
(経済学部1980年卒)

魚住 裕子さん  
(経済学部1980年卒)

大学で知り合い  
結婚へ

魚住さんご夫妻  
「ゆうちゃん」「まーくん」。  
今も呼び方はあのころのまま。

**男** 子学生700〜800人のうち、女子学生は1学年に10人程度。魚住さんご夫妻はまだ女子学生の少ない1978年に大学2年生で知り合い、付き合うようになりました。

「主人は覚えていないと言いますが、最初のデートは映画館で『人間の証明』を見た記憶があります」と裕子さん。在学中、友人同士が知り合いでグループでの交流があり、裕子さんの明るさと、統計学で「一番」という賢さに惹かれて正実さんが映画に誘ったのが2人の始まりです。

裕子さんは、私をリードしてくれるところに惹かれました。今も変わりませんが、チャレンジしようという気持ちが常にあり、それに向かって努力を怠らない真面目さが一番好きです。正実さんについて話します。正実さんは「妻は僕にとって大切なパートナー。甘えられる存在であり、必ず帰っていく場所。女房だけとお姉ちゃん

みたいな頼りになる、一番の相談相手です」と話し、互いに信頼する素敵なお夫婦であることがうかがえます。

実際6年・25歳のときに2人は結婚。そして、正実さんは魚住紙工印刷を設立します。「昔は仕事一箇線で、家庭をかえりみる余裕がありませんでした」と振り返る正実さん。仕事と、仕事の付き合い等で忙しかけていた正実さんを、そばで見守っていた裕子さんでしたが、ある日裕子さんが体調を崩してしまいます。正実さんは僕は突き進みすぎていた。寂しがらせていたのかなと反省しました。と当時の思いを語ります。それまで以上に裕子さんを思いやるようになったのだそう。

2人は現在もよく会話をし、土曜日は一緒に出かける仲の良いご夫婦。「ゆうちゃん」「まーくん」と呼び合い、穏やかな人生をこれからも共に歩み続けます。

## 河村さんご家族

「いろいろな経験をしなさい」。  
父の恩師から人生を学ぶ。

河村 一平さん  
(経済学部2002年卒)

河村 洋平さん  
(経済学部2005年卒)

河村 良平さん  
(経済学部1974年卒)



父子で  
名古屋学院大学卒

**「親** 子というよりは社会でのボスと部下のような関係」と、父のことを語る息子たち。河村良平さんと一平さん、洋平さん親子は、それぞれ会長代表取締役・取締役部長として新築リフォーム・店舗工事等を行う株式会社土樹和を営んでいます。

父良平さんが卒業した名古屋学院大学に、息子の平さんと洋平さんが入学したのは、良平さんの思いと、良平さんの恩師である西村嵩夫元名古屋学院大学学長の存在が関係しています。一平さんも洋平さんも、在学中は学外でどう過ごしていたかを印象深く覚えているようでしたが、西村元学長に関しては「いろいろなことを教えていただいた」と二人ともが口を揃えます。

「一平さんと洋平さんが西村元学長と出会ったのは、中学生のころ。父良平さんが、学生時代にゼミでお世話になった西村元学長主催の「高友

会」というOB会に、二人と奥さんを連れて行ったことで交流が始まります。「機会があれば、いろいろな経験をさせたかった。年代の違う人とも交流し、様々なことを学んでほしいと考えていました」と良平さん。父の期待どおり、西村元学長や他のOBと知り合うことで、社会のあり方や人との接し方など多くを学び、成長した二人。その交流は名古屋学院大学に通うきっかけにもなり、現在の仕事や生き方に影響を与え、人脈づくりに繋がっていきました。

「息子たちは厳しい親だと思っていたでしょう。公私ともに私の失敗を糧として、自身の良さを成長させて会社を発展させてほしいと期待しています」と、一平さんと洋平さんを温かく見守る良平さんの言葉が、家族の固い絆を感じさせてくれました。